

はじめに

去る 2022 年 9 月 4 日、インカレ・ロードレース（男子）において、落車により 1 名の選手（塩谷真一郎さん 法政大学 1 年）が亡くなるという悲しい事故が発生いたしました。本連盟主催大会中の死亡事故はここ半世紀の間、記録にありません。今般の事故を重く受け止め、今後の安全性向上に資することを願い、事故の経過についてご報告致します。

1. 開催の概要

- ・主 催 日本学生自転車競技連盟
- ・共 催 公益財団法人日本自転車競技連盟 鹿児島県自転車競技連盟
- ・期 日 令和 4 年（2022 年）9 月 4 日（日）（トラックは 9/1-3 根占自転車競技場にて開催）
- ・交通規制 午前 8 時 00 分～午後 1 時まで（レース終了 12 時 27 分）
- ・スタート時間 午前 8 時 30 分（一斉スタート）（女子は 3 分遅れの時差発走）
- ・出走数 155 名 → 完走者（36 名） ※ 優勝者の平均速度： 37.9km/時

2. コースの概要

錦江町役場前（国道 269 号線）をスタート・フィニッシュ地点とする 1 周 24.2km、標高差約 220m のコース。男子は 6 周 145.2 km（女子は 3 周）で実施されました。

全般的に幅員は広く、路面状態も良好なコースです。

2020 年の国民体育大会開催に向けて 2014 年頃より検討・準備が進められ、2019 年 9 月には国民体育大会リハーサル大会を兼ねて「第 5 4 回全国都道府県対抗自転車競技大会」がこのコースを含むより広範な規模で実施されています。特に事故があったとの報告はなされていません。

（2020 年に予定されていた国体は、コロナ禍により 2023 年に延期されました）

3. レースへの参加

本大会への参加には、事前にチームを通じて日本学生自転車競技連盟への登録が必要です。

日本学生自転車競技連盟ではロード競技者を実力別にクラス 1～3 の 3 クラスに区分しています。本大会への参加はクラス 2 以上であることが必要条件であり、また 1 チーム 8 名以内の人数制限があるため、各校 8 名以内の推薦を受けた者に限られます。

（通常、新入生はクラス 3 として位置付けられ、ロードレースカップシリーズ戦クラス 3 のレースで上位 5 %以内に入るなど一定の条件を満たすことによりクラス 2 に昇格する仕組みとなっており、一定以上の技量を有する者のみが参加可能な大会となっています）

また 8 名のほかに補欠 2 名の登録が可能です。

今回の事故により亡くなられた塩谷真一郎さんは、小学生時代から自転車競技に取り組み、高校時代は自転車競技の強豪校とされる高校で研鑽され、大学入学後の2022年度全日本学生ロードレースカップシリーズ第1戦第一日（4月30日開催）にクラス3レースで1位を獲得してクラス2に昇格し、翌日からクラス2レースで走行実績のある、競技力・熟練度に優れた競技者で、法政大学チームからエントリー時より正選手として推薦されて本大会に出場されています。

4. 事前の注意喚起

参加チームに対しては、早めに現地入りしてコース試走を行い、コースを熟知しておくよう7月8日に注意喚起を電子メールにて発信いたしました。

また8月31日に本連盟WEB上にて、現地入り後の練習において事故を防止し日常交通の妨げとならないよう、充分配慮するよう注意喚起を致しました。

5. コース設営・安全管理

コース上の交差点や枝道、交通等が多い箇所等に約200名の立哨員を配置し、路面や観戦者、通行者の管理を行いました。また、転倒等の危険性が予見される個所にはクッションドラムや防護柵、セフティ・コーン等を設置しましたが、本件落車場所は危険性の高い場所とは予見されていませんでした。安全対策の設営は、2019年に行われた都道府県対抗大会の設営を概ね踏襲しています。

大会当日、交通規制開始予定時刻（午前8時）前にスタッフは持ち場に移動し、各ポイントリーダーが配置状況等を無線で本部に連絡。午前8時、警察署による規制が施行され、警察車両及び広報車、併せて主催車両（レースディレクター・カー）が常時コースを先行し、道路状況を随時確認しました。

大会前日の9月3日（土）には17時より競技役員ミーティングを行って運営上の確認を行い、17:30からは車列に入る車両ドライバー向けの「ドライバーズ・ブリーフィング」（安全上の注意事項の確認）を、UCI（国際自転車競技連合）提供画像を使用して実施しました。

6. 天候

競技中の天候は、曇り～晴れ、時々雨でした。

台風11号の接近を受け、当日午前6時に主催団体である日本学生自転車競技連盟、共催団体である鹿児島県自転車競技連盟、開催町（錦江町、南大隅町）がスタート/フィニッシュ地点に参集して協議を行いました。具体的選択肢として、中止、距離を短縮しての実施、予定通りの実施の3案が検討されました。事前に中止判断の基準として想定されていた気象に関する警報は競技実施区域では発令されておらず、また6時時点では曇りで降雨がないことや天気予報が競技時間中の荒天を予想していないことから、予定通りの実施とするものの、その後に例えば雷雨警報が出た場合は、レース途中であっても中止・距離短縮の可能性もあることを関係団体で再確認しました。

その後、競技開始前や競技中に雨は降ったものの、競技続行可能な範囲に留まり、事故当時の現場では、降雨はほぼありませんでした。風は特段強くなく、落ち葉などが散乱している状況は特に認められず、雨上がりで一部乾燥・一部ウェットな複合的路面状況であったと考えられます。

7. バイクチェック

大会当日スタート前にバイクチェック（自転車の点検）が行われました。これは各選手の自転車が競技規則に定められた寸法・重量の規定に沿っているかを点検することを主眼としており、たとえばブレーキの整備状況など安全性に関わる点検は選手自身の責任において出走することと規則上定められています。

なお、以前はUCI（国際自転車競技連合）が利用を禁止していたディスク・ブレーキについては、2018年7月にUCIが使用を解禁したため、これに準じて日本学生自転車競技連盟の大会でも使用可能となっており、本大会においてもディスク・ブレーキ利用者と従来型のリム・ブレーキ利用者が混在していました。

8. 救護体制

競技規則に則り、男子選手メイン集団直後にドクター・カー（医師1名及び救急救命士2名同乗）を配置していました。本件事故時は女子レース終了後であったため、女子レース向けドクターカー（医師1名・看護師1名・救急救命士1名同乗）も現場に援護に向かいました。

また大会本部にはドクターカーとは別に医師2名・看護師3名・救急救命士1名からなる地上救護所を設け、治療体制を整備していました。

9. 事故時の競技の進行状況

スタート後、フィニッシュ地点と中間地点（田代地区）の打切関門において先頭から概ね5分遅れの選手は除外されながら競技は進行し、3周回完了時のフィニッシュラインにおいては先頭集団に7名の選手、1分14秒遅れで80余名のメイン集団の順で通過し、その後、中間地点（田代地区）で4名が打ち切れ、事故時点でのコース上の走行選手総数は約90名であったと考えられます。4周回目の登坂終了時点で先頭集団とメイン集団のタイム差は20秒程度で、その後の下りで先頭集団はメイン集団に吸収されていた可能性がありますが、登り区間で遅れた選手が相当数おり、落車時の正確なメイン集団の人数は把握できていません。

事故は4周回目のスタート地点から概ね18KMの下り区間で11時前に発生しました。集団内の選手が何らかの理由で転倒し、後方に位置していた複数名が避けきれずに連鎖的に転倒したと考えられます。メイン集団後方を走行していて落車現場に一早く到着したCOM1（審判長車）及びドクターカーが直ちに救護措置・安全対策措置（後続の選手へのホイッスル・旗等による注意喚起）を行い、後続選手が落車した選手や停止中の審判車両等に追突する二次災害は防ぐことができました。審判車両等は登りで遅れた選手の後方から安全な距離をとりながら降坂していたため、事故時の瞬間の確認はできていません。

この落車により、その場でDNF（Do Not Finish、棄権等）となった者が塩谷選手を含めて13名、落車に巻き込まれたが直ぐに再乗車し、完走した者が2名、再乗車したが完走できなかった者が9名、計24名が影響を受けたと把握されています。レースの中断も検討されましたが、救護活動に支障を与えないよう配慮しながら競技が続行されました。

10. 救急要請の経過

救急要請の経過は以下の通りです。

10:57に救急要請、11:05救急車到着、直後にドクターヘリ要請、11:28ドクターヘリ到着、11:45ドクターヘリ離陸、11:57鹿児島市内の救急病院到着。

11. 落車後の対応と塩谷選手の症状

ドクター・カー到着時点で塩谷選手は意識不明の状態であり、現場より救急要請を行い、ドクター・ヘリで鹿児島市内の救急病院へ搬送されました。

医師からご家族へ伝えられたところによると、頭部・頸部・胸部等に損傷があったとのことでした。残念ながら、同日22時08分にご両親に見守られながら息を引き取られました。

以上が事故の経過報告となります。引き続き、幅広くご意見を伺いながら安全性の向上に努めて参ります。改めてご本人様のご冥福を心よりお祈りし、ご遺族・関係者の方に哀悼の意を表します。本大会の開催にご協力頂いた皆様にご心配をおかけしたことをお詫びいたします。

ご遺族よりコメントを頂いておりますので、以下にご紹介させていただきます。

塩谷真一朗さんの御尊父、塩谷隆行様からのコメント

「大会が開催され、息子がインカレという素晴らしい大会及びコースで走れたことに感謝している。この事故の件で、インカレで勝者した選手が埋もれてしまうのではなく、もっと勝者を讃えていただきたい。そうすることを息子も望んでいると思う。各チームのエースが集う選手と良い位置で勝負をしていた息子は走りながら満足だったと思うし、私もうれしく思う。

息子の死は残念だが、この事故が原因となり、今後の自転車競技が萎縮して行くことは私も息子も望んでいない。息子の死が無駄にならないように安全性を高めて競技を再開し、前に進んで行ってほしい。」

以上

